

第 40 回 Bruker NMR ユーザーズミーティング 参加報告

共通機器部門 共通利用機器管理班 柿村順一

1. はじめに（目的等）

核磁気共鳴分光法（以後 NMR と略す）に関する基礎的および最新の情報を習得し、今後の研究支援のための知識・技術を向上させることを目的として参加した。

2. 期間・場所

期間：令和 5 年 10 月 3 日

場所：梅田スカイビル（大阪府 大阪市）

3. 参加者等

大学，研究所，企業等にて NMR 分析及び運營業務にかかわる技術者および研究者 約 100 名

4. 研修内容

聴講した講演，講習の内容は下記の通りである。

DOSY による合成高分子のキャラクタリゼーション，企業での研究・開発における固体 NMR の利用，NMR を活用した工程解析・管理，糖タンパク質の NMR，NMR による最新電池研究，最新の固体プローブで変わる NMR 測定，最新ハードウェアの紹介，ソフトウェアの機能の紹介。

5. まとめと感想

まず 4 年ぶりのオンサイト開催であったため，他の参加者と直接交流する機会が再び得られた点は非常に有意義であったと思う。

講演では，企業及び大学における利用例や研究内容について聴講した。今回は演題数も多く，幅広い内容に接することが出来た。先述の講演内容の内，担当している機器において測定機会が増えてきた DOSY（拡散係数測定）について聴講することができ，幸運であった。解析については非常に高度で理解が困難な内容も含まれていたが，一方で測定やサンプル調整に関わるノウハウも紹介されたので，これらは今後の業務に反映させたい。

講習で紹介されたソフトウェアの便利な機能については，自分自身の業務やユーザーからの要望への対応にも早々に役立つ内容であった。また，固体 NMR 測定についても基本的なものも含めて様々な情報が得られた。昨年度から固体測定も業務範囲に含まれるようになったため，違うメーカーでも共通している部分は積極的に活用していきたいと考えている。